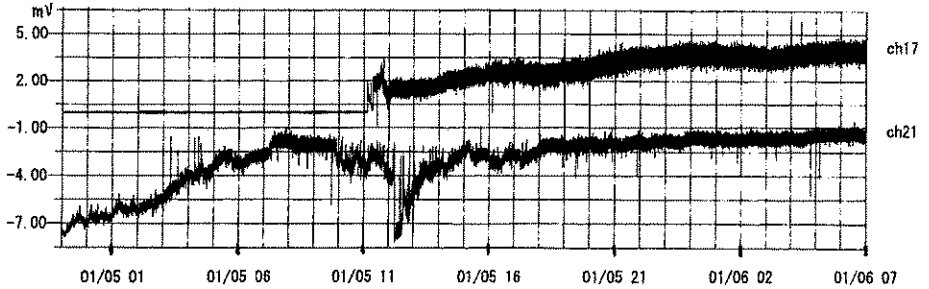


原稿校了後の前兆変化について

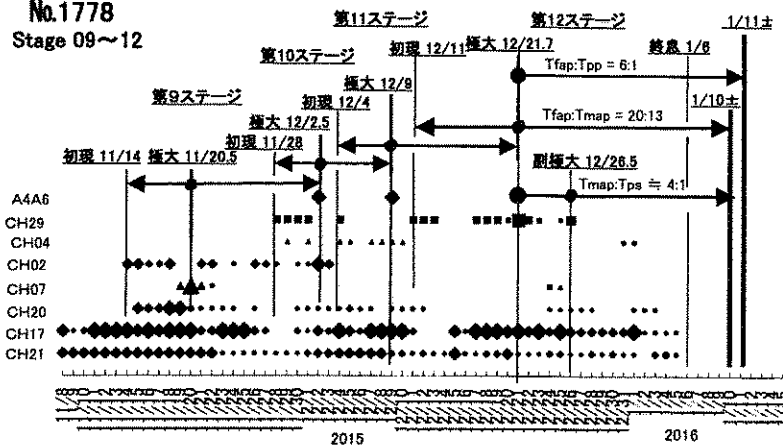
八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆続報 七年半継続の全前兆が終息! 前兆再出現無ければ→1月11日±発生の可能性

2008年7月初旬初現で観測歴上最長継続となる7年6ヶ月継続出現した前兆群=No.1778 前兆は現在第12万-混認識。01月05日±に前兆終息の可能性を予測しておりました。最後まで継続出現していたCH17, 21の2観測装置の前兆が右波形の通り01月05日昼~深夜にかけて前兆が静穏化。1/6午後現在CH21は13時頃~若干不安定化。但し概ね静穏。CH17=完全静穏。

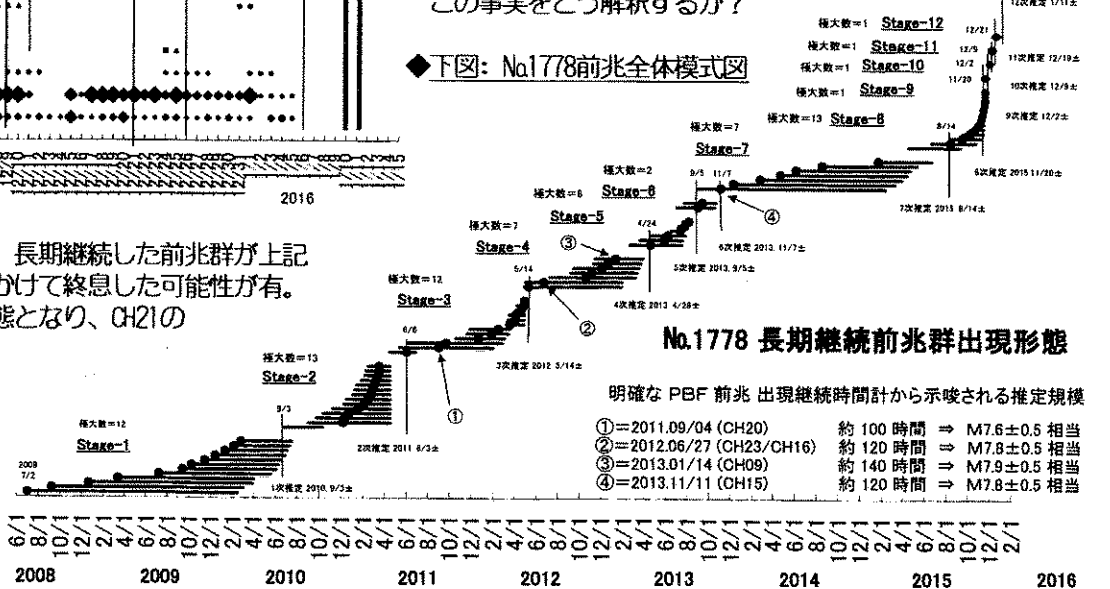


No.1778 Stage 09~12



◆上波形: 最後まで残っていた前兆 CH17, 21が静穏化した様子 糸状特異が継続していたCH17が, 1/5 11hに正常基線。CH21は 1/5 18h頃よりほぼ正常基線化, 1/6 00hより正常直線基線。CH17は, 1/6朝短時間糸状態が再出現するも、現在は正常基線。7-11では, 1~3時間、全前兆が正常基線に復帰したことはありましたが、全基線が12時間以上静穏は7年半で初めて! この事実をどう解釈するか?

◆下図: No.1778前兆全体模式図



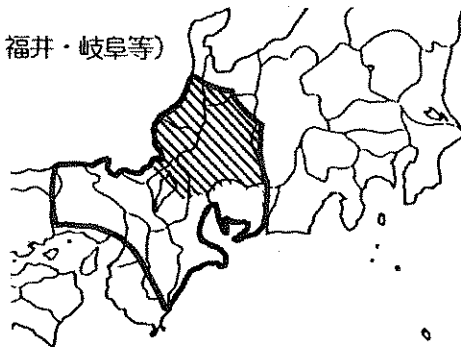
2008年7月より7年半の間、長期継続した前兆群が上記の通り01月05日の昼~深夜にかけて終息した可能性が有。CH17は本日朝短時間再び糸状態となり、CH21の基線幅が極く僅かに細く若干不安定ですが、誤差範囲で、1/6 0時迄に全前兆終息の可能性も有。終息時期の誤差を加味した推定は以下。
1/5 10h頃終息⇒1/10発生
1/6 00h頃終息⇒1/11発生
1/6 19h頃終息⇒1/12発生
1/7 14h頃終息⇒1/13発生

No.1778 長期継続前兆群出現形態

明確な PBF 前兆 出現継続時間計から示唆される推定規模

- ①=2011.09/04 (CH20) 約 100 時間 ⇒ M7.6±0.5 相当
②=2012.06/27 (CH23/CH16) 約 120 時間 ⇒ M7.8±0.5 相当
③=2013.01/14 (CH09) 約 140 時間 ⇒ M7.9±0.5 相当
④=2013.11/11 (CH15) 約 120 時間 ⇒ M7.8±0.5 相当

- ◆推定領域: 右図 太線領域=大枠推定域 ※斜線域=可能性が考え易い推定域 (石川・福井・岐阜等) (影響局誤認の場合は東北⇐可能性低い)
◆推定規模: M7.8 ± 0.5
◆推定期期: 1月11日 (±1日) (最大誤差=1月10日~1月13日) (※明確な前兆再出現の場合は発生日再考)



- ◇推定地震種: 震源が浅い陸域地殻地震
◇推定発生時刻: AM09:00±1 (or PM6:00±3) 但し前震発生の場合は無効。
※解析間違いで推定内容と異なる地震発生の場合は深くお詫び申し上げます。

CH17の本朝の特異再出現とCH21の若干の不安定基線は、1/6 00時±終息の誤差範囲が、1/6本日夜に終息の可能性も考えられます。またHPではNo.1778以外は公開しておりませんが実験観測情報では既に報告済のNo.2710前兆の影響の可能性も若干有。現状をどう理解するか難しいですが、01月11日or12日を中心に、誤差を含めた1/10~1/13期間内に対応地震発生の可能性が示唆される現状を報告致します。直前特異出現の可能性もありますが、1/9迄の状態を更に観測し、現状の推定が覆されるデータが観測された場合は、再考し修正がある場合は続報で報告予定です。